

プログラムの活用法

4つのモジュール型プログラム

講習内容を4つ(4module)に分けています。連続した4時間の講習会が不可能な場合、分割して講習を行えるようにしています。

例えば・・・

- ・ 一般外来看護師の講習の場合、勤務終了後に毎週1時間だけ行う。
- ・ 新人教育に勤務時間内で、1時間だけ病棟を離れて行う・・・など。

必要物品

<必ず準備するもの>

- 成人蘇生人形 (1 グループに1 体)
- AED トレーナー (1 グループに1 台、電極パッド含む)
- BVM : バック・バルブ・マスク (1 グループに1 つ)
- ベッドかストレッチャー
- ストップウォッチ ※ペーサー機能つき (各グループに1 個あると望ましい)
- 救急カート (背板付)

<オプションによって必要なもの>

- VF / Pulseless VT、Asystole、PEA の波形をした図または、不整脈発生装置
- マニュアル除細動器
- 気管挿管器具一式
- フェイスシールド
- ポケットマスク (各人に1 個)
- 消毒用アルコール綿 (適量)
- 聴診器

講習会場、受講者人数

講習会場は、1 グループ (受講者 3~4 名) あたり 4~6 畳程度の広さとし、グループ数に応じた大きさの部屋を確保する必要があります (会議室、体育館、教室など)。ベッドや人形を乗せるテーブル等が用意できない場合は、床の上での演習になるため、カーペットやマット等も必要です。複数グループで実施する場合、隣接するグループのインストラク

ターや受講者の声があまり影響しない程度に、間隔を空けることが望ましいです。メモ程度の記述ができるホワイトボードや黒板等を準備できると良いです。また、身体を動かすため、空調設備のある会場が望ましいです。

望ましいインストラクターの割合

1グループ、多くても2グループに1名のインストラクターの配置が理想ですが、施設の事情によって、何らかの心肺蘇生講習を受けたことがある者が、知識・技術・プログラムを熟知した上で、インストラクターアシスタントを行うなどの、アレンジをしてもよいと思います。

インストラクターの条件

救急看護認定看護師、小児救急看護認定看護師、集中ケア認定看護師、急性・重症患者看護専門看護師、心肺蘇生関連団体のインストラクターなど、心肺蘇生講習に精通している者。

以上